

問1 日本の「奴国」が中国の後漢から金印を授かった紀元1世紀前後の、日本と世界の情勢について述べた文として、背景や関連性が正しいものはどれですか。（2019年 神奈川県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 奴国の王は、中国の皇帝との外交関係を築くことで自国の地位を高めようとし、同じ頃の世界ではローマ帝国の繁栄とともにキリスト教が成立し始めていた。 | 2. 奴国の王は、インダス文明との交易を有利に進めるために後漢へ使者を送り、同時期に中国では仏教が日本へ伝来した。 | 3. 奴国の王は、イスラム教の影響を受けた後漢の制度を取り入れるために金印を求め、パレスチナでは十字軍の遠征が始まっていた。 | 4. 奴国の王は、織田信長が行った楽市・楽座のような自由貿易を求めて後漢と交渉し、同時期のヨーロッパでは大航海時代が幕を開けていた。 |
|--|---|--|--|

問2 紀元1世紀ごろ、日本の小国の王が、中国の皇帝に対して貢ぎ物を送る「朝貢（ちょうこう）」を行い、金印を授けられた主な理由や背景として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 長崎公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 中国の皇帝から王としての地位を認めてもらうことで、国内における支配の正当性を高めるため。 | 2. 中国の進んだ仏教文化を日本に導入するために、僧侶を派遣する正式な許可を得るため。 | 3. 大陸で勢力を強めていた高句麗に対抗するため、中国と軍事同盟を結ぶ必要があったため。 | 4. 日本国内の統一を成し遂げたことを報告し、中国への輸出関税を免除してもらうため。 |
|---|---|--|--|

問3 弥生時代に作られた青銅器のうち、釣鐘のような形をしており、表面に流水などの幾何学模様が施されている祭祀の道具を何というか。（2026年 新潟公立入試 類似）

- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 銅鐸 | 2. 銅鏡 | 3. 銅剣 | 4. 石包丁 |
|-------|-------|-------|--------|

問4 弥生時代に造られた、掘立柱によって床を高い位置に設けた建築物の特徴と目的について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2021年 佐賀公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 収穫した稲を貯蔵するために造られ、湿気を防ぎ、ネズミなどの害獣の侵入を防ぐ工夫が施された。 | 2. 地面を円形や方形に掘り下げ、その上に屋根をかけた人々の住居として、防寒性を高める工夫がなされた。 | 3. 大陸から伝わった仏教の儀式を行うための施設として、屋根に瓦をふき、床に石を敷き詰めて造られた。 | 4. 貴族が政治や生活を行うための住居として、池を中心とした広い庭園に面して複数の建物が廊下で結ばれた。 |
|--|---|--|--|

問5 稲作の伝来によって食料を蓄えることが可能になると、社会の仕組みが大きく変化しました。土地や水をめぐる争いが発生し、富や権力を持つ者が現れたことで生じた、当時の社会の変化として正しい説明を選びなさい。（2023年 長野県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|-----------------------------------|---------------------------------------|--|
| 1. 各地に「クニ」と呼ばれるまとまりができ、それを支配する「王」が現れた。 | 2. 人々は定住をやめ、マンモスを追いかけて移動する生活に戻った。 | 3. 朝廷が全国の人々を戸籍に登録し、すべての人に一律に口分田を支給した。 | 4. 身分差がなくなり、すべての村人が平等に食料を分配する仕組みが完成した。 |
|--|-----------------------------------|---------------------------------------|--|

問6 日本列島で稲作が広まり、人々が竪穴住居に住んで定住生活を行っていた時代について説明した記述があります。その記述には、大陸から伝わった銅鐸や銅鏡などの青銅器が祭祀の道具として用いられていたことや、当時の中国の歴史書において日本が「100余りの国」に分かれていたと記されていることが示されています。この時代の名称として正しいものを選びなさい。

（2022年 鹿児島県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 弥生時代 | 2. 縄文時代 | 3. 古墳時代 | 4. 奈良時代 |
|---------|---------|---------|---------|

問7 3世紀、邪馬台国の女王であった卑弥呼は、中国の王朝に使いを送り、その皇帝から「親魏倭王」という称号や金印、さらには多くの銅鏡を授けられたと記録されています。このとき、卑弥呼を倭の王として正式に認めた中国の王朝を選びなさい。（2021年 奈良公立入試 類似）

（2021年 奈良公立入試 類似）

- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1. 魏 | 2. 秦 | 3. 隋 | 4. 唐 |
|------|------|------|------|

問8 弥生時代の祭祀で使われた青銅器のうち、釣鐘のような独特の形状をした道具について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2026年 滋賀公立入試 類似）

- | | | | |
|---------------------------------------|--|--|---|
| 1. 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。 | 2. 土でつくられ、古墳の周囲に並べることで死者の霊を慰める役割を果たした。 | 3. 非常に鋭い刃を持ち、敵と戦うための武器や木材を加工する工具として使われた。 | 4. 仏教の伝来とともに寺院に設置され、人々に時刻を知らせるために打ち鳴らされた。 |
|---------------------------------------|--|--|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 奴国の王は、中国の皇帝との外交関係を築くことで自国の地位を高めようとし、同じ頃の世界ではローマ帝国の繁栄とともにキリスト教が成立し始めていた。	当時の小国の王が中国（後漢）の皇帝に使者を送り金印を授かったのは、中国の権威を背景に周辺諸国に対して自国の地位を有利にする目的がありました。この紀元1世紀という時期は、西洋においてはローマ帝国の統一とイエスによるキリスト教の創始という、その後の世界史に大きな影響を与える出来事が重なっています。インダス文明は古代、イスラム教や十字軍、大航海時代などはより後世の出来事であり、奴国の時代背景とは一致しません。
問2	答え 1 中国の皇帝から王としての地位を認めもらうことで、国内における支配の正当性を高めるため。	当時の日本（倭）は多くの小国が分立しており、各地の有力者は自らの権威を強めるために、強大な権力を持つ中国の皇帝に使者を送りました。皇帝から「王」として認められ、その証として金印や銅鏡などの貴重な品を授かることは、周辺の他の勢力に対して自らの支配力の正当性を示す大きな強みとなりました。
問3	答え 1 銅鐸	弥生時代には大陸から金属器の技術が伝わり、青銅器と鉄器がほぼ同時に使われ始めました。青銅器のうち、釣鐘の形をした銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、豊作を祈るための祭りの道具として用いられたと考えられています。
問4	答え 1 収穫した稲を貯蔵するために造られ、湿気を防ぎ、ネズミなどの害獣の侵入を防ぐ工夫が施された。	弥生時代に稲作が普及すると、収穫した稲を長期間保存する必要が生じました。高床（式）倉庫は、地面からの湿気が直接伝わって米が腐敗するのを防ぐために床を高く設計しています。また、梯子（はしご）を使って出入りする構造になっており、柱の上部には「ネズミ返し」と呼ばれる板を取り付けることで、貯蔵した食料を害獣から守る工夫がなされていました。
問5	答え 1 各地に「クニ」と呼ばれるまとまりができ、それを支配する「王」が現れた。	稲作によって余剰生産物が生まれると、蓄えの多い者と少ない者の間で貧富の差が生じました。また、水資源を管理するリーダーが権力を持つようになり、小さな集団が統合されて「クニ」が形成されました。それらを統治する「王」が登場したことは、中国の歴史書にも記されています。なお、戸籍による口分田の支給は、後の律令国家の仕組み（班田収授の法）にあたります。
問6	答え 1 弥生時代	紀元前数世紀から紀元後3世紀頃にかけての日本列島では、大陸から伝わった水稲耕作（稲作）が普及し、食料生産が安定したことで社会の仕組みが大きく変化しました。この時代、鉄器が武器や工具として使われる一方で、銅鐸などの青銅器は豊作を祈るための祭礼具として重宝されました。また、中国の歴史書『漢書』地理志には、当時の日本（倭）が100余りの小国に分かれ、一部の国が楽浪郡を通じて中国（漢）に使者を送っていたことが記されています。
問7	答え 1 魏	3世紀の中国は魏・呉・蜀の三つの国が並び立つ三国時代にありました。日本の邪馬台国を治めていた卑弥呼は、その中の一国である魏に朝貢し、皇帝から「親魏倭王」の称号を得ることで自身の権威を高め、国内の統治を有利に進めようとしたと考えられています。この出来事は、魏の歴史を記した『魏志』倭人伝の中に詳しく記述されています。
問8	答え 1 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。	釣鐘型の青銅器は「銅鐸（どうたく）」と呼ばれます。その表面には、鹿を狩る様子や稲作の風景、高床倉庫などが描かれていることがあり、当時の生活を知るための貴重な資料となっています。古墳時代に作られた埴輪や、実用的な武器としての鉄器とは役割が明確に異なります。